様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２４年１０月２６日現在

機関番号：11501
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2009～2010
課題番号：21700799
研究課題名（和文）
現代的課題群の解決に資する「越境する教師」支援モデルの開発に関する研究
研究課題名（英文） A study on the development of supporting systems for teachers attempting to cross professional boundaries to solve modern problems
研究代表者
酒井 俊典（SAKAI SHUNSUKE）
山形大学・エンロールメントマネジメント部・助教
研究者番号：80507632

研究成果の概要（和文）：
本研究は，現代的諸課題に対応するための，教師の専門性発達に資する教師の越境に関して研究することが目的である。これまで教師の学習機会は，学校の内部と外部に区別されて議論されてきたが，近年の学術的知見の要請だけでなく，学校現場でのニーズから，外部アクターとの関わりを視野に収めた取り組みが独自にあり，教師の越境には，特定の生成過程や指向性が存在することが明らかになった。越境する教師の学習と，同僚性に基づく学校組織での学習とを接続した上で，教師像と循環型教師支援モデルの開発の必要性が確認された。

研究成果の概要（英文）：
This study aims to show that teachers who strive to cross their professional boundaries can enhance their specialties in order to deal with current, complex problems. Until now, teachers' learning opportunities have been discussed separately from either inside or outside the school environment. However, in the search for fresh academic knowledge and considering the needs of schools themselves, a new approach that takes into account a teacher's external influences is proposed. This original technique allows educators to discover new processes and orientations that go beyond their specific field of study. In order to utilize this unique multidisciplinary way of thinking, a support system within the school is deemed crucial for success.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００９年度	1,000,000	300,000	1,300,000
２０１０年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：教師教育
科研費の分科・細目：科学教育・教育工学
キーワード：現代的課題，越境，教師，調査，支援モデル開発

１．研究開始当初の背景

グローバル化の影響が社会システムの多様な領域で提唱される現代にあって,教育改革やその問題が,教育の文脈だけで解決できないことが指摘されて久しい。社会の変動をとらえる理論的な視座も複数提唱されている。例えば,Appadurai が 5 つのフローで指摘したように,現在,教師が直面する課題には,（１）民族,（２）メディア,（３）技術,（４）資本,（５）観念といった要因が絡まり合うよ

うに存在している。教師が直面している困難な問題群は社会の複合的かつ流動的な変動から派生するものである。

（１）日本の教師が抱える問題状況
　我が国では「２００７年問題」として団塊の世代の大量退職が教育分野における課題となり，それに伴う教師の新規大量採用の時代が予見されてきた。当初，この問題は，長らく日本の教師の専門性の「質」を保障してきた教師文化の衰退，危機として受け止められてきた。教師の知識や技術などを伝承・継承し，また，新たな実践の知を紡ぐための場や環境をどのように支援するかが，現在模索されている。

（２）現代的課題群に対応しうる新たな「越境する教師」像と教師支援モデル開発の要請
　一方，グローバル化の影響を受け，メディア・リテラシーや情報教育，環境教育，市民性教育，ニューカマーに対する教育など，異なる分野の「知」の担い手との協力が求められる，教師自身では対応することが困難な現代的諸課題群が存在する。これらの現代的課題群に共通する背景は，社会の流動性や多様性の高まりであり，ここにおいて教師には子どもや親のバックグラウンドの流動性，多様性について，その類似性と異質性を的確に把握・対応し，価値観を調停しながら，問題を解決し，社会で互いに寛容な関係を築くことが求められる。

２．研究の目的
　筆者は，これまで教師が異なる専門家と相互作用し，メディア・リテラシーについて専門性発達することを支援するオンライン学習環境を開発・実践・評価してきた。その結果，既存の教師像とは異なる，「越境する教師」像とその支援モデル開発の必要性についての示唆を得た。メディア・リテラシーは現代的諸課題に対応する分野の一つである。
　本研究では，「越境する教師」という新たな教師の専門性像とその教師支援モデルの開発を試みる。具体的に異分野の人々と交流して，越境を試みる教師の研究会などを調査し，そこに理論的検討を加える。それらを筆者の行ってきた実践研究の知見と再検討することで，既に教師が直面する、現代的課題群に対応可能な「越境する教師」の育成が可能な教師支援のモデルを開発する。

３．研究の方法
　異なる分野へ越境を試みる教師等を対象に，主にインタビュー調査を行う。現代的課題群の一つである，メディア・リテラシーにおける教師支援のオンライン学習環境デザインの研究知見を援用，更に理論的検討を加える。その上で，越境する教師像と教師支援モデルを開発する。

（１）越境する教師が何を学習しているかを把握するために，①学校以外の学びに関わる研究会や場等に参加した経験のある教師個人，②教師の越境機会を提供しているＮＰＯや高等教育機関等の主催者に対してインタビュー調査を行った。

（２）調査結果を踏まえ、蓄積のある既存の教師の成長や教師の専門性，力量形成研究との知見の接続を図る。また，幅広く，現代的課題に対応するため，学習環境・社会ネットワークに関する処理論の知見を検討し，越境する教師像とその支援モデルの開発を試みる。

４．研究成果
　「越境する教師」という教師の専門性像とその教師支援モデルの開発を試みるための調査と理論検討を行った。
　その結果，教師自身が，個人的にテーマを持ち越境している事例や，高等教育機関やＮＰＯが仲介に入り，場や機会を提供したものへ参加する事例が確認された。そこでは，主催者がどのように異なる背景を持つ人々の間に学習が生起するか，支援する為のポリシーや実践の仕組みが明らかになった。一方、既に，学校サイドが，自ら開放性をテーマに掲げて，積極的に保護者，地域の人的資源やＮＰＯ，研究者，異なる専門分野の人々を巻き込んでいく際の仕組みについて，特定の異なる形態の生成過程や指向性が確認された。越境経験のある教師自身が管理職となっている場合，また，管理職と信頼関係を構築している場合が確認され，越境していく教師を異質な存在としてみなすのではなく，特定の資質を持つ存在として位置づけている事例が明らかになった。そこでは，越境していく教師のエートスや，様々なアクターの「知」を学校運営に活かしていこうとする管理職のスタンスやビジョン，実践の方策などを巡る葛藤が，個人，学校組織，コミュニティ，ネットワークでのレベルと多層的に絡み合っていることが確認された。
　また，越境していく教師個人のレベルにおいて，これまでは，教師個人の資質として還元されて議論されがちであった。本研究では，自分自身でテーマを決定し，意識的に，越境していく事例や，自分自身では感覚的に越境しているとする事例が双方確認されている。また，異動を通じて，職業文化や役割の違いから，越境経験を意味付ける事例も確認された。これまで，教師の越境に関しては，その内実がどのようなものであるか，またどのような具体的なバリエーションがあるかにつ

いては，踏み込んだ議論が行われてこなかった。更に，越境そのものがどのような次元で，どのような要因に支えられているかについては，整理して議論されることは少なかった。本研究のインタビュー調査からも，多層的なレベルで教師の越境経験は語られており，それは絡み合っているのであるが，腑分けをする必要がある。

今後の課題として，教師の越境現象そのものを定位させていくためには，ミクロレベル（個人間），メゾレベル（組織，ネットワーク），マクロレベル（全体社会）で便宜的に捉え，上記のインタビュー調査の結果がどこに位置するものなのか，それぞれの合意を特定し，議論の枠組みの整理を行う必要があることが明らかになった。

近年では，グローバル化や社会の変動状況に応じた高度な専門的知識と技量を備えた教師への要請は，検討されている。そこでは，従来の反省的実践家，適応的塾達者として教師をとらえる専門家像を再検討する試みが随所で見られている。そこでは，強力な教師の専門家団体の構築を目指すだけではなく，より広範な利害関係者と有意義で開かれた関係を構築可能な専門家集団としての教師像が提案されつつある。

教師の専門性やその支援のあり方について，学校を超えた同僚性や学校内外を横断できる様な視座を求める理論的要請が存在する。越境する教師が，学校内部と外部をどのように横断しているか，どのように異なる専門的「知」と相互作用するかのプロセスと，教師が越境し学習した「知」を，どのように，学校内外で位置づけ，循環・環流させているかその関係性を駆動するプロセスを実践レベルで明らかにする必要がある。また，それは，本研究で注目した越境の内実にだけ着目するのではなく，それを可能にしている諸条件を特定することに繋がる。従って「学校の外部と内部」を横断する要因と，既存の教師の成長研究の知見を理論的に検討したうえで，越境する教師の学習と，同僚性，学校組織での学習とを接続する循環的な営みとして教師像と教師支援モデルをミクロレベル，メゾレベル，マクロレベルで立体的に捉え，探求することが課題だ。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計０件）

〔学会発表〕（計２件）

① 酒井俊典　教師像と教師支援のヴァリエーションとフォーメーション探求への一考察　日本教育工学会 2010.9.19 金城学院大学

② 酒井俊典　教師のメディア・リテラシー実践を支援するオンライン学習環境のデザインに関する研究―模索される教師像への一考察　日本教育工学会 2009.9.19　東京大学

〔図書〕（計０件）
〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
酒井　俊典（SAKAI SHUNSUKE）
山形大学 ・ エンロールメントマネジメント部・助教
研究者番号：80507632

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし